拓友 30

日本大学拓友会会報
生物資源科学部 国際地域開発学科
第30号 2007年10月発行

学科70周年・拓友会60周年記念祝賀会開催!!

◆詳細は本文4頁に掲載◆

受け継がれる拓植精神

拓友会会長
内田　俊太郎

本年、学科設立70周年並びに拓友会設立60周年の記念すべき年を迎えました。

顧みれば、昭和12年４月に専門部拓殖科として設立された学科は、時代の要請に的確に応えるべく、昭和19年に拓植学科に改称したのを初めとして、平成８年に現在の国際地域開発学科への改称を含め、都合６回、改称されています。また拓友会は、昭和21年８月に占領政策により廃止された拓植科の復活を目指して昭和22年９月に結成され、その後学校当局と一致協力し、18年もの努力の結果、昭和38年新制農獣医学部拓植学科の設立が実現されました。

そして現在の拓友会は、会員１万余、準会員（学生）524名を擁し隆盛をほこるに至りました。これは偏に、先輩各位の情熱と粘り強い実践の結果であり、ここに改めて深甚なる敬意を表します。

60周年を契機として、拓友会の新たな飛躍のために最も必要なことは、会員相互の絆の強化であり、活動の活性化です。

そのためにも、幾多の変遷の中で変わらずに受け継がれてきた拓植精神に想いをいたしたいと思います。世界の繁栄と文化の進展を希求し、燃えるような情熱と粘り強い実践力で未知の領域に挑む開拓者魂・フロンティアスピリットであり、拓植精神です。

グローバル化を背景に、今後ますます世界の変化は加速されるに違いありませんが、普遍的な拓植精神が拓友の共通基盤であることを再確認し、今後も受け継がれることを信じて、さらなる発展を期したいと思います。

学科においては、少子化への対応とともに、時代の要請に応じるべく、たゆまぬ努力がなされております。拓友会は今後とも学科発展のために努力してまいる所存ですので、会員の皆様には、引き続きご指導・ご支援をいただきますよう心からお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

学科主任御挨拶

国際地域学科主任教授　**半澤　和夫**

1996年の学部名称変更時に、本学科は拓植学科から現在に改称して早12年目になります。

この間、世界は大きく変わりました。中国やインドなどが高い経済成長を達成するようになり、また経済のグローバル化が猛烈な勢いで進んでいます。さらに、地球環境の問題はますます深刻になってきました。

学問や開発協力の分野も大きく変貌しています。戦後の拓植学科時代、学問上の基礎であった経済学においては、マルクス経済学が凋落する一方で、多様な経済システムを認めようとする制度経済学、心理学の成果を取り込んで経済合理性の前提から脱却を図る行動経済学などが興隆しつつあります。

また開発協力の分野では、経済開発から人間開発、社会開発に重点がシフトして開発対象は広がり、社会学や人類学などの成果を踏まえた上で、開発批判を含む多様性の尊重や複眼的思考が求められるようになりました。

日本でも開発協力分野の学部や学科はかなり増えましたが、他方で、受験生は少子化により大幅に減少しています。本学科は農学分野では老舗として時代のニーズを先取りし、幾度か改革を重ねてきましたが、いま、私たちの学科は最大の危機を迎えています。

しかしながら、食料問題、貧困問題、地球環境問題など、本学科が対象とするグローバルイシューは未解決のままです。他方、物質的に恵まれ、乾いた人工的・都市的空間の日本社会に生きる現代の若者たちに、いま、生きる喜びや利他心を学ぶ機会を提供できるのも、本学科の使命ではないかと思います。

このように学科のレゾン・デートルには崇高なものがあると自負しています。だからこそ、先輩諸氏のご努力で再建された学科のともし火が、創立70周年を迎えてひときわ光り輝くよう、拓植魂でこの難局に臨む所存であります。

拓友会からのますますのご支援、そして大勢の拓友諸氏の叱咤激励をお待ちしております。

入　学　状　況

平成19年度は108名の新入生を迎えました。うち男子75名(69.4%)、女子33名(30.6%)です。中国からの留学生が2名います。出身高校別では、日大付属が57名(52.7%)、公・私立別では公立高約34.3%、私立高が約13%です。

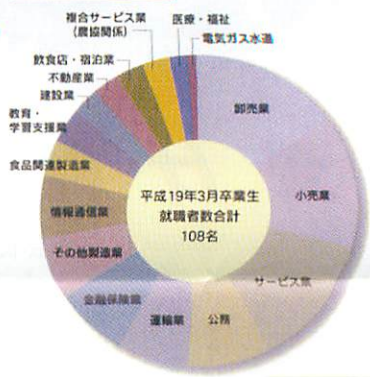
都道府県別(出身高校所在地)では、東京都出身者の33名(30.5%)が最多で、ついで神奈川県28名(25.9%)、でした。北は青森県、南は沖縄県の20都県に及びます。新入生のほか、復学・留年生が9名おり、1年の在籍学生数は117名となります。

就　　職

充実したサポートと就職状況

本学科では『開発協力ボランティア養成プログラム』や『公務員試験(専門試験)対策講座』など、独自のプログラムを設けて、より明確な目標をもつ学生諸君の要請に応えています。平成19年3月に卒業した146名のうち、大学院進学は7名、海外の大学・大学院への留学3名、就職が108名でした。また、青年海外協力隊には現在、訓練中及び派遣中の学科OB・OGが、計14名となります。

業種別就職先



環境美化に向けて

1年次オリエンテーションを江ノ島で実施

今年度の１年次オリエンテーションは、５月１９日(土)に江ノ島にほど近い片瀬東浜で「かながわ海岸美化財団」の協力を得て、環境美化活動として実施しました。環境保全・ボランティアについて、まず地元での実践から体験してもらうことが狙い。午前中は時折小雨が降ったが、午後になると青空が広がり、担任も一安心。

学科教員を含め約100人が、午前午後と約4時間にわたり汗を流しました。昼食は学科から弁当とお茶を支給されましたが、海外研究部に所属する学生有志の呼びかけによる「ＭＹ箸」持参に多くの学生・教員が協力しました。翌日の神奈川新聞にも報道され、本学科の地域貢献を地域にアピールすることができた。

学科紹介

学科紹介のパンフレットができました。

学科では拓友会からの協力もあって、魅力的な紹介パンフレットを作成しました。どこへでもお送りいたしますので、請求は事務局までご連絡下さい。また、ホームページも充実しています。是非ごらん下さい。

URL http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/～ids/

海外研修

中国・海南島、広州で海外研修

昨年度から実施している海外研修を平成18年度は12月22日～29日までの期間、中国の海南島と広州で実施しました。引率教員は半澤和夫教授、倉内伸幸助教授で参加学生は1年生5名、2年生2名、3年生1名、4年生1名の9名でした。海南島では、海南大学にて海外における危機管理講座、海南島の歴史、民族、自然、農業について講義を受け、市場で価格調査を行ったり、リー族、ミャオ族の村を訪問し少数民族の生活や文化を学びました。

広州ではアグリビジネスの現場研修のため、中央卸売市場、大規模野菜農場や食用鳩生産・加工工場を見学し、ダイナミックに変貌しつつある中国を実感できました。海南島と広州は飛行機でわずか1時間でしたが、農業や生活の違いを勉強することに大変役に立ちました。今回の研修は本学科OBで現在、海南大学客員助教授の桑村和朝先生に企画から官公庁との折衝まで細部にお世話になりました。学生たちにも海外で活躍するOBの存在はとても刺激になったようです。また近い将来海南大学を訪問したくなる、そんな旅でした。

活躍する拓友

田崎　正光 氏　(1974年卒)

世界的な種子メーカー・販売会社「サカタのタネ」本社取締役。現在、「サカタ・ベジェネテック社」会長、「メイフォード社」副社長として南アフリカに出向中です。卒業後、協力隊に参加(バングラデッシュ)後、国際協力機構(JICA)専門家(バングラデッシュ、インドネシア、ブラジル)を経て、現在に至っています。

松谷　昌樹 氏　(1991年卒)

横浜ランドマークタワー45階にオフィスを構える「ランド」(不動産関係)の若き創業者社長。本年2月、東京証券取引所２部に上場、社員200名、資本金37億円。いま、この分野のビジネス界でもっとも注目されている人物の一人。「国際協力ゼミ」(当時、金沢教授・半澤専任講師担当)出身で、学生時代から起業意欲に燃えていました。

竹下　真弓 氏　(1998年卒)

私はＪＴＢトラベランドで旅行の販売業務に携わっています。今では旅行も多様化していて、発展途上国へ行くお客様も多く、そのような時、本当に学科で学んだことが生きているなと実感します。また、ゼミでは年中行事を手がかりに日本文化について研究しましたが、そこで得た知識や経験が、何よりも国内・海外旅行の両方を取り扱う今の仕事に役立っています。

高木　直人 氏　(2004年卒)

大学生活の中で見つけたものは「世界の中での自分の役割」です。学生時代には１年間休学しアメリカへ留学、海外から初めて客観的に日本を見ることができました。現在、CBS信越放送でアナウンサーをしています。この仕事は幅広い知識が求められますが、学科での勉強は私の夢を実現してくれました。肌で感じた世界の今とそこで見つけた自分の役割を夕方６時からのゴールデン番組で生かしています。

受賞

青山和佳先生第23回「大平正芳記念賞」受賞

大平正芳記念財団によって「環太平洋連帯構想」の発展に貢献した政治･経済･文化･科学技術 に関する優れた著作に対して贈られる「大平正芳記念賞」が、本年６月青山和佳准教授に贈られました。受賞作は『貧困の民族誌―フィリピン・ダバオ市のサマの生活』(東京大学出版会)で、学科にとってもたいへん喜ばしいことです。これからも益々ご活躍されるよう、期待しております。

新任・昇格・退任

新　任

青山　和佳 准教授　慶應義塾大学出身。本年４月より着任され、共通科目のほか「開発社会学」「宗教社会学」「国際関係論」などを担当。主な研究対象フィールドをフィリピン南部に置き、社会、民族をはじめ幅広い研究を進められています。モットーは“研究は遊び、遊びは研究”。これからのご活躍を期待します。

昇　格

林　幸博 先生　助教授から教授（研究所）に昇格されました。環境生態学他を担当。

退　任

中島　皐介 教授　「資源作物学」他を担当されました中島先生が、６月に定年退職されました。どうもありがとうございました。

権丈　敬次 専任講師　「熱帯園芸学」「生産技術実習」等を担当し、学科のOBとして後輩である学生指導に情熱を注いでこられた権丈先生が、８月に定年退職されました。長い間ありがとうございました。

訃　報

中村　薫 先生

中村薫元教授が昨年８月21日逝去されました。先生は特に農場実習の充実にご尽力され、厳しくも温かい指導は、何時までも懐かしく思い出されます。先生のご冥福をお祈り申し上げます。
合掌

広瀬　昌平 先生

本学名誉教授 廣瀬昌平先生は病気ご療養中のところ、平成19年３月７日、逝去されました。いつも柔和な笑顔で教壇に立たれた先生のお姿を偲びつつ、先生のご生前のご教導に対して心から感謝の気持ちを捧げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。
合掌

【学科70周年・拓友会60周年記念祝賀会開催のお知らせ】

本年は,旧専門部拓殖科が1937年（昭和12年）3月に設立されて70周年,また,拓友会が1947年9月に結成されて60周年の節目の年にあたります。そこで,下記の通り記念祝賀会を開催することになりました。今回の記念祝賀会には同期または研究室のOB会メンバーなど連絡し合って,大勢が参集していただきますようお待ちしております。

記

開催月日：平成19年12月1日（土）午後2時より

（1）学科70周年・拓友会60周年記念講演

演　　目：「アフリカの森林破壊と農村の貧困」（仮題）

講　　師：ギアー　M. カジョバ（Gear M. Kajoba）

ザンビア大学教授、総合地球環境学研究所客員研究員

（2）記念祝賀会　午後3時30分から5時

場　　所：日本大学生物資源科学部　本館地下「カフェテリア」

費　　用：5千円（当日,会場にて申し受けます）

申し込み：同封のはがきにてお申し込み下さい。（締切日：11月24日まで）

問合せ先：拓友会事務局　電話&FAX　0466-84-3457（担当:早川）

【編集後記】

今年、拓友会設立60周年、学科設立70周年を迎えました。60周年といえば還暦、再び生まれた年の干支に還る年です。内田会長も触れられていますが、この機会に拓友会の原点を思い起こし、会員の親睦を深めると共に、母校の発展に寄与していきたいものです。

中村薫先生と広瀬昌平先生が逝去されました。私は中村先生の農業実習を受講し、ご指導を受けました。農業実習において中村先生は、いつも率先して汗を流され、笑顔で「肉体はゴリラのごとく、精神は神のごとくあれ」と、口癖のように言われたものでした。心身ともに幼いチンパンジーのようだった私どもが、先生の輝く汗の中に、神が宿っていたのだと悟ったのは、遥か後のことでした。拓友各位は両先生のご生前のどのようなお姿を思い浮かべられたのでしょうか。両先生の徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

発　行：日本大学拓友会
編　集：会誌編集委員会 委員長 平岡完勝
事務局：日本大学生物資源科学部 国際地域開発学科内
住　所：〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866 TEL&FAX.0466-84-3457
印　刷：Basic Print